Tulips University of Tsukuba Repository

柳川数一郎「日記書契」について

著者	?橋 淳, 中川 紗智, 花木 宏直
雑誌名	歴史地理学野外研究
号	16
ページ	53-62
発行年	2014-03
その他のタイトル	Introduction to the Diary (Nikkishokei) Written by Yanagawa Kazuichiro
URL	http://hdl.handle.net/2241/00124491

歴史地理学野外研究　第16号　53～62　2014

柳川数一郎「日記書契」について

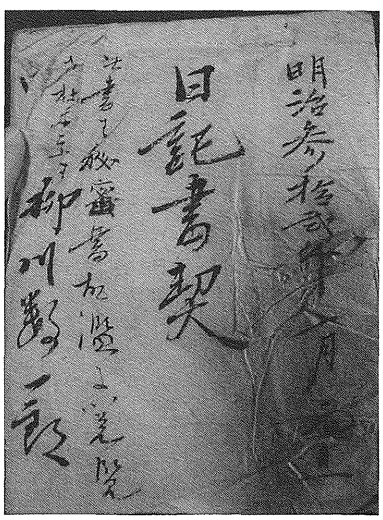
髙橋　淳・中川　紗智・花木　宏直

Ⅰ　解題

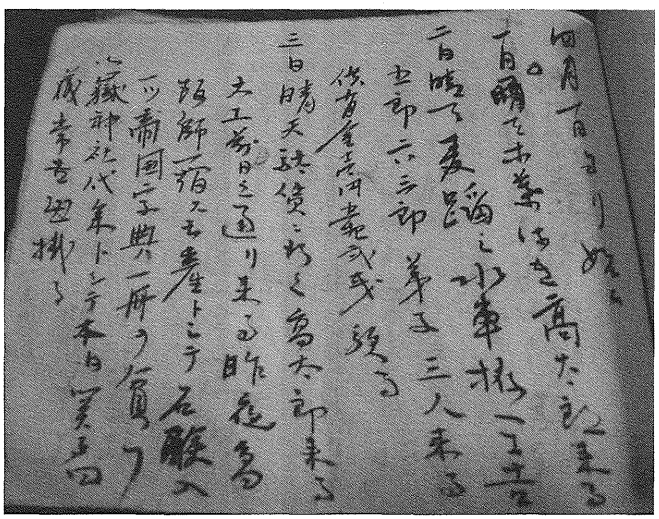
筑波大学歴史地理学研究室では，平成24～25（2012～13）年度に神奈川県津久井郡旧青根村（現，相模原市緑区青根）を研究対象地域として，近世期から近代期にかけての関東山地東麓における地域変容に関する共同調査を行った。調査を通じて，青根村荒井地区の柳川家より，明治32（1899）年に当主の柳川数一郎が記した「日記書契」という資料を見出すことができた（第１図，第２図）。調査に参加した髙橋と中川，花木は，本資料が明治中期の関東山地東麓の生活の実態を知る上で貴重な資料であると考え，翻刻を行った。

柳川家は，成立年次は明確ではないが，遅くとも近世後期には荒井地区に居住していた。また，家号を「オモテ」といい，近世期に青根村上野田地区にある家号「シモ」の山口家と交代で青根村の名主を務め，小田原藩の大名行列の通行時には家を宿舎に提供していたといわれている。近代期以降も多数の田畑や山林を所有し，稲作や養蚕業に加え，薪炭の仲買と米穀や日用品等の販売等の多様な家業に従事した。柳川数一郎は，現当主の義祖父にあたり，家業に加え津久井郡会議員をはじめとして，さまざまな公務にも従事した。

「日記書契」に記される日付は，明治32年１月１日から10月30日までと，年次の記載がない４月１日から４月27日，５月15日，16日，18日，６月１日から７月12日，８月11日である。なお，年次の記載のない箇所について，明治32年の内容と大きな相違はないことや，本資料の末尾には日記の他の内容と直接の関係が不明瞭であるが，明治33（1900）年９月３日付にて青根村役場より農会設立に伴い柳川数一郎に農会会員の勧誘を依頼する書類が挿入されていることから，明治33年の記録と推察される。内容は，天候と，主に家業に関する事柄が記されている。記載のあり方は，たとえば明治32年１月３日付では「晴天　炭焼きに行



第１図　「日記書契」表紙



第２図　「日記書契」記載例（年次不明４月１～３日付）

く」と簡潔に記されており，明治32年１月19日付から２月14日付までは「同断」のみ記されている。つまり，本資料は，時事や日々の出来事に対する感想を詳細に記したものではなく，日々の出来事を簡潔に記し，とくに出来事がない日は記録を省略するという記載のあり方がみられる。

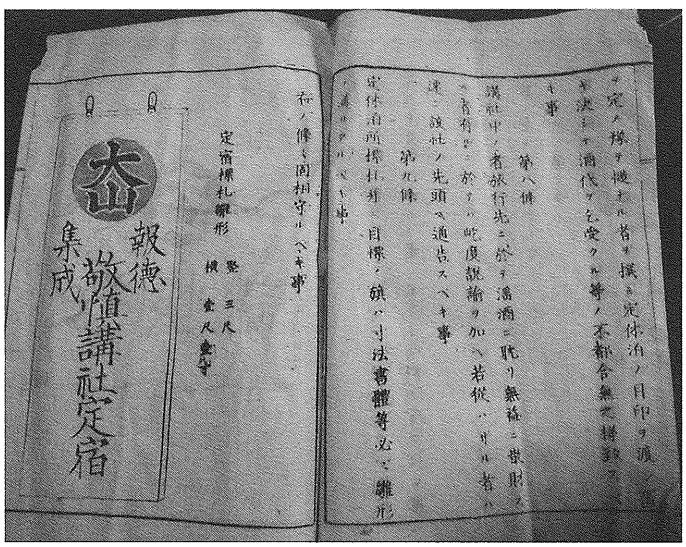
このような本資料には，注目すべき事象が多く記されている。柳川家の家業については，雇人を雇用し，稲作や大麦，小麦，粟，芋，甘藷，大根，豆，養蚕等の農業や，炭焼やスギの植林，スギやクワの苗木の販売といった林業に従事していたことがわかる。とくに，明治32年10月29日付には「駒割へ過燐酸一斗一升使ふ」，10月30日付には「道側過燐酸一斗二升使用ス　ツルシ小麦播く」と記されており，麦作への化学肥料の使用がみられた。

商業については，明治32年７月21日付にて「川和へ駄賃に行く　炭六俵弐円四拾八銭」，と記されていることをはじめ，炭の販売先として津久井郡旧中野村川和地区（現，相模原市緑区）が登場する。消費生活の実態についても，明治32年９月30日付にて「駄賃ニ行く　買物費用　一　金弐円六拾銭五歩　炭六俵　一　〃拾八銭　かまぐち　一　〃拾銭　はさみ　一　〃拾銭　ようじひも　一　〃弐拾銭　足袋一足　一　〃参拾銭　股引　一　〃参拾八銭　綿ふらん　一　〃拾四銭　袖一組　一　〃八銭　草履　一　〃弐拾銭　小使費　計壱円六拾八銭」と記されており，薪炭を販売した利益で刃物や衣類をはじめとするさまざまな日用品を購入していた。なお，川和地区については，明治32年７月11日付にて「馬病気に罹る」，７月12日付にて「川和獣医荒津為次郎先生来り最速全快」と記されており，薪炭の販売や獣医の招へいをはじめ，青根村荒井地区をめぐる中心地の一つとして機能していたことがうかがえる。

また，物資の購入に注目すると，明治32年６月２日付にて「橋本へ電気を買いに行く　炭六俵壱円拾弐銭」と記されており，薪炭の販売とあわせて高座郡旧相原村橋本地区（現，相模原市緑区）で「電気」と記される何らかの事物を購入していた。明治32年７月31日付にて「東京へ薬買に行く」，８月１日付にて「立川宿り」，８月２日付にて「東京より帰る」と記され，３日間かけて東京方面へ薬の購入に出かけていた。また，年次不明５月15日付にて「八王子へ土管注文に行く」と記され，八王子（現，東京都八王子市）方面との交流もみられた。

さらに，信仰に注目すると，明治32年１月１日

第３図　「大山敬慎講社規則」表紙



第４図　「大山敬慎講社規則」記載例

には，荒井地区にある御嶽神社と青野原村や鳥屋村の境界にあたる稜線にある焼山神社へ初詣に出かけていた。また，明治32年８月17日付の「倉次郎大山へ行き不参」という記述をはじめ，大山（現，神奈川県伊勢原市）への参詣に関する内容が多数みられた。一方，明治32年２月19日付には「今夕津島おし宿る」，２月21日付にて「おし宿る」等，津島神社（現，愛知県津島市）をはじめとする御師の宿泊もみられた。柳川家は，大山御師が巡回する際に宿泊を提供してきた家であり，作成年次は不明であるが「大山敬慎講社規則」という資料も残存する（第３図，第４図）。

娯楽に注目すると，明治32年５月17日付にて「当日ハ旧四月八日祝日に当る　共有桑原耕ニ行き兎撃をなす　始ニ山へ登りてくらみまで行き鳩の卵を一ツ苦む　昼喫はずにて空腹する」，８月14日付にて「狩に行く」と記されており，兎等の狩猟や山登りといった娯楽がみられた。養蚕の一段落した年次不明６月13日付には「苦労伏ヲナス　終ニ祝トシテ酒五升井上基一方ヨリ貸金弐円ニテ持来ル　井上佐吉夫婦八時頃来ル　佐吉苗取ニ行ク」と記され，飲酒や慰労が行われた。

一方，明治32年10月２日から４日付にて，数一郎が父の見舞のため東京の病院へ行った際の記録には，「橋本を立ツ金子へ行く費用　一　金一銭　甘藷　一　〃二銭五厘　共進会費　一　〃参銭　しるこ　一　〃弐拾八銭　硝子時計　一　〃八円四拾銭　時計二箇　一　〃拾銭　菓子　一　〃拾弐銭　飯料炭　一　〃拾銭　柿漬　計九円六銭五厘」や，「時計へ油ヲ抽ス　倉市君へ時計相渡ス　残金弐円弐拾五銭かし　新次郎へ時計を渡す　代金参円八拾銭ニテ渡す」とあり，時計の値段等も記されている。また，年次不明４月３日付にて「昨夜富永師一宿ス　土産として石鹸一ツ帝国字典一冊ヲ貰フ」と記されており，宿泊の手土産として石鹸や辞書の授受がみられた。

本資料は，荒井地区の地元有力者である柳川家を事例に，明治中期における地元有力者の多角的な家業経営の実態や，薪炭の販売と物資，サービスの購入を通じた明治中期における関東山地東麓の地域間関係が判明する。さらに，本資料は，大山信仰や狩猟をはじめとする信仰や娯楽の実態や，化学肥料，石鹸，時計，辞書といった近代期以降に日本に導入された商品の利用等，明治中期の関東山地東麓における生活の実態が判明する貴重な資料である。

Ⅱ　翻刻

明治参拾弐年一月元旦
日記書契
此書者秘密書記溢に覚覧を禁示す
柳川数一郎

一月部

一日　晴天　早朝折掛を拵へて御嶽神社へ参詣に行夫れより焼山神社へ参詣に行く途中富士見松辺雪積有登るにすべりて一時ハ登れさるかと思考候得共尚忍耐心を起して静かに足を進めて漸く頂上に至りて皈る　夫れより炭焼かまへ行に至りし時倉次郎掃ききりて休み居し処たてる　今朝加藤房太郎へ手紙を出す村会ありて出席す

二日　晴天　炭焼きに行く　炭負はじめ

三日　晴天　炭焼きに行く

四日　晴天　炭焼きに行く

五日　晴天　炭焼きに行く

六日　晴天　捨次郎鯛太郎来り栗木を伐採する

七日　晴天　捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす

八日　晴天　捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす　駄賃に行く

九日　晴天　捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす

十日　晴天　捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす　駄賃に行く

十一日　晴天　捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす　余生炭焼に行く
十二日　晴天　捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす　炭焼に行く　大坂の□ひろう
十三日　晴天　捨次郎鯛太郎来る　株式会社へ絹三匁をかきばまへ届けるる書面を出す　今夜も五人とまる
十四日　晴天　炭焼に行く　風吹く寒さ甚し
十五日　晴天　風強く吹く酷寒し　同断
十六日　晴天　風烈しく吹く寒さ酷し　同断
十七日　晴天　同断　異議なし
十八日　晴天　同断　異状なし　朝薄曇りにて雨もようなり
十九日　晴天　同断
二十日　晴天　同断
二十一日　晴天　同断
二十二日　晴天　同断
二十三日　晴天　指を斬りて休み
二十四日　曇天　同断　父関へ行く
廿五日　晴天　同断
廿六日　同断
廿七日　同断
廿八日　同断
廿九日　同断
三十日　同断
三十一日　同断

二月
一日　同断
二日　同断
三日　同断
四日　同断
五日　同断
六日　同断
七日　同断
八日　同断
九日　同断
旧暦一月元旦
十日　同断　一日竈休み
十一日　同断
十二日　同断
十三日　同断
十四日　同断
十五日　雪模様なり　同断
十六日　雪ふり　竈へ二人で行く　雪積る事一尺五寸位　夕方止ズ
十七日　晴天　竈へ行くに難艱苦労したり
十八日　曇天　雪時々班（ママ、斑か）ニふる積る事八寸ばかり
十九日　晴天　竈へ行く　今夕津島おし宿る
二十日　晴天　休み
二十一日　晴天　竈へ行く　くら（ママ）お拵える　おし宿る
~~廿一日　金弐拾七銭関戸ます受取時貸し　金六拾銭柳川とき受取時貸し~~
二十二日　曇天　竈へ行く
二十三日　大雨降り　竈へ~~行く~~止め
二十四日　雨風烈し　竈止め
二十五日　雨天
廿六日　同断
廿七日　同断
廿八日　同断

三月部
一日　雨天　同断
二日　曇天　同断
三日　雨天夕方雷鳴す　同断
四日　雨天　同断　照懿倉吉温泉へ出足ス　同断
五日　晴天寒シ　同断
六日　晴天暖　同断　新兵衛来る
七日　晴天暖　同断
八日　~~雨天　炭六俵壱円八拾六銭~~
九日　~~雨天　南風強し~~
十日　~~晴天~~
十一日
十二日
十三日
十五日

十六日
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日
三十一日

四月
一日　雨天
二日　南風
三日　雨天　十二俵出す
四日　雨天
五日　曇天　道作り
六日　曇天　泰助大工来始め
七日　晴天　大工来る　同断
八日　雨天　大工来る　同断
九日　晴天　大工来る　善吾と神野川へ遊に行く　~~大工来~~　杉苗七百本井上基一へ送る　氏神へ弐拾壱本植る
十日　晴天　杉苗百五拾本作太郎へ売る
十一日　晴天
十二日　晴天
十三日　曇天　鎌田藤太郎日雇に来始る　とちでいろの木こどり
十四日　雨天　同断　来る　鎌田来る
十五日　晴天　同断
十六日　晴天　杉苗百五拾本「とちでいろ」東向ノ地へ植る　捨次郎来る
十七日　雨天　苗五百本仝所へ植る　捨次郎来る
十八日　曇天　杉苗四百本持行とちでいろ東向の地へ合計九百二拾本植付タリ　鯛太郎吉五郎来る
十九日　曇天　杉苗四百本持行ク　トチデイロノ桑原ノ上方へ植ル　桑原ノ上ヨリ畦ニカケテ合計四百三拾二本
二十日　曇天　旧三月拾一日祭典正午ニテ休み　炭かまはき切り
二十一日　雨天　祭にて休み
二十二日　南風吹く　杉苗百本持行く　休み
二十三日　晴天　杉苗五百本持行捨次郎鯛太郎来る　母大山へ参詣に行く
二十四日　晴天　杉苗弐百六拾本持行く　植切り　捨次郎鯛太郎半日来る
二十五日　晴天　芋作り苗把一把五拾本遺し置持に行く　少しく襄（ママ、誤か）りたる様見立る
二十六日　曇天　壱千六百五本少き分植換へタリ　大麦耕終結　古芋
二十七日　晴天　煤掃をなす
二十八日　晴天　弐百拾本愛助
二十九日　晴天　二百二十五本弥助へやる
三十日　晴天

五月一日　晴天　少しく掃く　父病院へ行く
二日　晴天　半数掃く
三日　雨天
四日　晴天　杉植をなす
五日　曇天　苗おろしをなす
六日　雨天　下山を桑原耕に行く
七日　晴天
八日　晴天
九日　晴天
十日　晴天
十一日　晴天　陸種弐斗ふやかす
十二日　雨天　肥拵をなす
十三日　晴天　楢炭六俵金弐円五拾弐銭　白米一駄八円六拾銭
十四日　晴天　芝刈を始む　並炭六俵弐円拾銭　父の許へ鶏卵を送る

十五日　晴天　芝刈り　末日八王子町共進会へ生糸出品届をなす　倉次郎不参
十六日　雨天　昼飯より田へ行く　夕方より南風烈しく吹くニ川濫る
十七日　曇天　当日ハ旧四月八日祝日に当る共有桑原耕ニ行き兎撃をなす　始ニ山へ登りてくらみまで行き鳩の卵を一ツ苫む　昼喫はずにて空腹する照懸駄賃に行く　並炭六俵弐円拾六銭
十八日　甘藷苗をさす　並炭六俵弐円四銭
十九日　晴天　炭拵らへ　月夜野より俵六駄下のばあより並駄　西より七日駄四日戻る七拾六駄
二十日　雨天　芝刈り　棚の田を□
二十一日　曇天　捨次郎父を向に行く　桑原拵へ鎌田昨夕より病気にて不参　上野田のおばさん参る
二十二日　晴天　小豆を拵る　駒割へ陸稲を作る拾五升
二十三日　晴天　くら屋敷片付け
二十四日　雨天　作る
廿五日　晴天　炭六俵金九拾銭陸稲作り
廿六日　晴天　豆作り
廿七日　晴天　桑屋拵へ
廿八日　曇天　倉次郎八王子へ行く　炭六俵金壱円九拾弐銭
廿九日　曇天雨模様なり　甘藷作り　藤太郎芝刈り
三十日　曇天雨模様なり　□一時金貸し
三十一日　雨降り

六月
一日　晴天　炭六俵弐円四拾弐銭
二日　晴天　橋本へ電気を買いに行く　炭六俵壱円九拾弐銭
三日　雨天　南風烈しく吹く　暖気なり
四日　晴天　南風強し　炭六俵壱円九拾弐銭
五日　曇天　南風強
六日　曇天　南風強し　先蚕屋とて下山より桑壱駄採る
七日　曇天　下山より桑四駄採入る
八日　雨天　炭六俵壱円八拾六銭
九日　雨天　南風強し
拾日　晴天
拾一日　晴天　田植ス
十二日　晴天　田植
~~十三日　晴天~~
拾二日　晴天　田植　手伝八左衛門正午より善右衛門
十三日　雨天　田植前日と雇人同し
十四日　曇天　忠吉やとう
十五日　晴天
十六日　晴天　繭むし
十七日
十八日
十九日
二十日
廿一日
廿二日
廿三日
廿四日
廿五日
廿六日
廿七日
廿八日　大麦打をなす　手伝人。柳川四郎左衛門。関戸関作。関戸音吉。関戸八十吉。柳川鉄造。柳川善吉。関戸躰太郎
廿九日　雨天
三十日　駄賃に行く

七月一日　雨天
七月二日　餅粟を蒔く
三日　曇天
四日　曇天
~~五日　曇天~~
五日　曇天　下山ノ山麦刈り　彦作を偏む
六日　曇天　藤造ノ父来る　宿る

七日　曇天　庄吉手伝　当日藤造ノ寄留届を送る
八日　雨天
九日　雨天　鈴木商店の番頭宿る
十日　雨天　杉ノ下刈り
十一日　曇天　昼飯より粟作り　馬病気に罹る
十二日　曇天　永井源造ヲ頼み来れども全快ノ見込なき処川和獣医荒津為次郎先生来り最速全快当日円造手伝ニ来る川和へ鯛太郎行く
十三日　晴天　粟作り（倉一）平貲（ママ）手伝ニ来ル
十四日　晴天　上青根清十郎手伝ニ来ル平貲手伝小麦こなしをなす　昼飯より周作善吾ノ手伝粟作り切り
十五日　晴天　こなし相終る
十六日　晴天
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日
三十一日　東京へ薬買に行く　藤太郎眼病にて不参

八月
一日　立川宿り
二日　東京より帰る　藤太郎不参
三日　晴天
四日
五日
六日
七日
八日　晴天
九日　晴天　南風強し
十日　晴天　同断
十一日　晴天　同断
十二日　晴天　同断
十三日　晴天　同断
十四日　狩に行く
十五日　晴天　小舟安太郎喜作安太郎見舞に来る
十六日　昨夜大風
十七日　晴天　小豆採り余生病休みする　倉次郎大山へ行き不参
十八日　晴天　倉次郎不参　本日帰る
十九日　晴天　異義なし
廿日　晴天　二番粟除草
廿一日　川和へ駄賃に行く　炭六俵弐円四拾八銭　倉次郎病気に罹り自家へ行く
廿二日　晴天
廿三日　晴天　大根作り
廿四日　晴天
廿五日　晴天
廿六日　晴天
廿七日　晴天
廿八日　晴天　南風強し
廿九日　雨天ニ付濫流ル
三十日　雨天
三十一日　雨天

九月部
一日　雨天
二日　雨天
三日　雨天
四日　曇天
五日　曇天
六日　曇天
七日　雨天
八日　雨天　頭痛の為藤太郎休み不参

九日　雨天
十日　曇天
十一日　曇天
十二日　雨天
十三日　晴天
十四日　晴天
十五日　晴天
十六日　晴天　藤太郎不参はれものにて
十七日　晴天　藤太郎不参
十八日　晴天
十九日　晴天
廿日　雨天
廿一日　曇天
廿二日　曇天
廿三日　曇天
廿四日　雨天
廿五日　晴天
廿六日　晴天
廿七日　仝
廿八日　晴天　金拾五円鏡代金取受る
廿九日　雨天
三十日　雨天　駄賃ニ行く
買物費用
一　金弐円六拾銭五歩　炭六俵
一　〃拾八銭　かまぐち
一　〃拾銭　はさみ
一　〃拾銭　ようじひも
一　〃弐拾銭　足袋一足
一　〃参拾銭　股引
一　〃参拾八銭　綿ふらん
一　〃拾四銭　袖一組
一　〃八銭　草履
一　〃弐拾銭　小使費
計壱円六拾八銭

十月部
一日　晴天　上野田叔母様東野叔父様福太郎保哲見舞ニ来る
二日　晴天　午前壱時に父東京正田病院へ行く見込にて発足途中まて気分悪しく相原橋本へ行く　籠屋鎌田藤太郎柳川弥助柳川吉助柳川新一郎　橋本へ午前拾壱時着　費用金八銭六厘川和馬渡の茶屋相原渡舟賃壱円小使ニ渡ス　計壱円拾八銭六厘
三日　晴天　橋本を立ツ金子へ行く費用
一　金一銭　甘藷
一　〃二銭五厘　共進会費
一　〃参銭　しるこ
一　〃弐拾八銭　硝子時計
一　〃八円四拾銭　時計二箇
一　〃拾銭　菓子
一　〃拾弐銭　飯料炭
一　〃拾銭　柿漬
計九円六銭五厘
四日　晴天　時計へ油ヲ抽ス　倉市君へ時計相渡ス　残金弐円弐拾五銭かし新次郎へ時計を渡す　代金参円八拾銭ニテ渡す
五日　晴天
六日　雨天
七日　雨天
八日　雨天　照懿父の許へ行く
九日　晴天　石垣を作る
十日　晴天　病掛す
十一日　晴天　仝断
十二日　仝断
十三日　仝断
十四日　晴天
十五日
十六日
十七日　晴天
十八日　晴天
十九日　相原へ行く　病気重し
廿日　善右衛門を頼みて父の元へ行く　雨天
廿一日　晴天
廿二日　晴天　平右衛門へ拾五円かし
廿三日　雨天　永井法事ニ行く
廿四日　父の元へ行く　金八拾銭使をしの

~~廿五日　晴~~　ばあ来る
廿五日　晴天　来る
廿六日　雨天　来る
廿七日　晴天　来る
廿八日　晴天　来る
廿九日　雨天　来る　駒割へ過燐酸一斗一升使ふ　早生麦
三十日　道側過燐酸一斗二升用ス　ツルシ小麦播く　倉市君の立替へ金相済み

四月一日ヨリ始ム
一日　晴天　木葉はき高太郎来る
二日　晴天　麦踏ミ水車拵へに吉五郎六三郎弟子三人来る　供肴金壱円五拾銭
三日　晴天　駄賃ニ行く　高太郎来る　大工前日之通り来る　昨夜富阪師一宿ス　土産トシテ石鹸入一ツ帝国字典一冊ヲ貰フ　御嶽神社代参トシテ本日関戸四蔵幸吉出掛る
四日　晴天　カギ畑ヘカケ肥ヲナス　大工吉五郎仙之助弟子三人来ル　高太郎来ル荻カリ
五日　晴天　大工六三郎一人来る　高太郎来る荻カリ　男今夕引越シタリ
六日　晴天　南風ある高太郎来ル荻かりツカサト二人ニテ甘藷クラヲ拵ラヘル壱円五拾弐銭預リ
七日　前夜より朝まで雨ふり　其之旨晴天余生駄賃ニ行く
八日　曇天　竈立切り　高太郎来る荻刈り桑苗ヲヲコス　幟ヲ剣次郎持来る
九日　曇天　高太郎来る　タカザスヱ桑植ニ四人ニテ行ク
十日　雨天　半日田耕行く　本日ハ旧三月十一日祭日
十一日　晴天　上ノ田祖母さん来ル　休日杉苗六百本長田安太郎へ売却ス
十二日　雨天　約中ニテ桑原拵へヲナス
十三日　桑原拵へ出来上ル　雨天　共有桑原へ八百本植ル
十四日　晴天　道作リ善右衛門ヲ頼ミ上ノ原へ使ス
十五日　晴天　桑苗とり　叔父桑苗ヲ買ふ
十六日　晴天　太郎左衛門杉苗買に来
十七　晴天　杉種五合蒔ス　山芋ヲ作ル古芋ヲ出ス
十八日　晴天　桑植ヲナス
十九日　曇天　麦さくり　井上喜助山口斎ゑ十三日苗ヲ出　東野叔母来ル　高太郎来る　馬ふせ
二十日　晴雨天　下でいろノ桑畑耕ヒ
二十一日　曇天　杉苗移植凡四千五百位　善太郎来る
二十二日　雨天　田ニ行ク
二十三日　晴天　桑原皆耕切リ　上ノ田祖父様来リ昼ヨリ田植ヘニ掛ル
二十四日　雨天　コ芋ヲ植ル
二十五日　雨天　休ミ
二十六日　雨天　アラクホリ
二十七日　曇天　三人ニテ田拵へ　酒造屋敷水田に変更スル　人夫数総三十人ニテ上出来上ル

五月十五日八王子へ土管注文ニ行ク　農工銀行へ株金払込ミヲナス
五月十六日春ヲ石屋ニ注文ニ付集会ス　代金八円八拾銭ニテ渡ス　内手金弐円善市郎ノ手ニ渡ス
五月十八日柳川きし来る　六月三日四日ノ両日不参

六月一日　雨天
六月
二日　晴天　豆作リヲナス
三日　晴天　苗ヘ薄肥ヲ播ス　桑屋拵をなす
三日　晴天　薪斬をなす
四日　晴天　芝刈鎌揃をなす

五日　曇天　桑切をなす
六日　雨天　コモアミ
七日　雨天
八日　晴天
九日　晴天
十日　雨天
十一日　雨天
十二日　晴天
十三日　晴天　苦労伏ヲナス　終ニ祝トシテ酒五升井上基一方ヨリ貸金弐円ニテ持来ル　井上佐吉夫婦八時頃来ル佐吉苗取ニ行ク
十四日　晴天　蚕作常ニ悪シト云レタリ　田植ニ行く　六尺半ハヌケ　鯛太郎ヲ頼ム
十五日　曇天　田植ニ行く　七人ニテ植切リ　手伝鯛太郎善右衛門
十六日　曇天寒し　新田一枚を植ル
十七日　曇天　新田植遣　善右衛門炭出手伝
十八日　晴天　田拵へ
十九日　一日表久保田拵ニ取掛ル　今日搗担ぎに行く　金壱円也石屋ニ渡ス
二十日　晴天　田拵へ三人ニ行ク　キク感冒ニテ不参
二十一日　晴天　桑一駄井上七郎兵衛ニ売ル田拵へ
二十二日　曇天　田拵へ
二十三日　曇天　桑苗フセ
二十四日　雨天　芝刈リ
二十五日　曇天　芝刈リ
二十六日　晴天　稲苗ヲ井上叔父ヨリ貰フ　佐吉ヲ使フ
二十七日　晴天　田拵へ新田植切リ
二十八日　雨天　ヨシ大麦刈リ日限リ
二十九日　曇天　佐吉不参　大麦刈　祖母さん不参
三十日　曇天　大山へ行ク　芝刈

七月
一日　曇天　芝刈リ
二日　晴天　麦入　佐吉疾病ヲ罹ル
三日　晴天　麦入　佐吉不参
四日　晴天　糯粟作リ　俊作小麦刈リ　佐吉不参
五日　雨天　土手作り　石屋ニ金弐円渡ス
六日　曇天　墓辺へ粟作り
七日　曇天　小麦刈り
八日　曇天　粟作り
九日　晴天　麦入切り
十日　曇天　粟播き切り
十一日　曇天　大麦ぶち　手伝音次郎四郎左衛門
十二日　雨天　水車拵へ　石屋へ約定金を残ズ渡し切り

八月十一日　晴天

七円三十一銭五厘
二円四十銭五厘

農一六三号
本村農会設立ノ認可相成候処農会員確定之義相願度候間該組合農業ヲ営ム者及耕地ヲ所有スル者ハ不残御勧誘之上入会候様御依頼申上候且其人名来ル八月ヲ期シ御報告ノ労ヲ接シ申度貴殿持ニ相願候也
明治三十三年九月三日　青根村役場
柳川数一郎殿

記　一金拾九銭
神奈川県津久井郡
青根村弐五〇番地
柳川数一郎
明治三拾弐年元旦より
雑記数一（ママ）数一（ママ）郎

（□は判読不能，――は抹消を示す。）